

東京新聞 TOKYO NEWS 2005.10.13

Asia
meets
Asia
2005

17日開幕

アジアの演劇人と交流する「Asia meets Asia 2005」が、東京で十七日に開幕する。五回目。

十七、十八日に、高田馬場のプロト・シアターで、シンポジウムとワークショップが十九日から二十三日まで、麻布die prazteで公演と観客との交流会を開く。

参加するのは、アフガニスタン、キルギス、カンボジア、ミャンマーなど、十二の国と地域（日本を除く）で、単独公演はキルギスだけ。数カ国・地域によるコラボレーションが多い。

といつのも、演劇環境が悪い国や地域が多く、アフガニスタンでは劇場もなく、けいこは路上でやっている状態。同国の劇団は今回、アメリカとのコラボ「鏡の向こう側」を上演するが、一度、奈良県大市市に集合して、けいこをする

実行委員会の大橋委員長は、こう話す。「アジア諸国は近いのに、日本からはあまり見えていない。演劇事情も、知られていない。キルギスはロシア文化色が強いなど、文化的にもいろいろ混じっている。やはり親近感が高いので、アジアとしての共通性を見つげられたらいい、と思っている」

公演後の観客との交流会では、英語通訳ボランティアが付く。

◇

Aプログラム(19日) 2500円、Bプログラム(20、21日) 3500円、Cプログラム(22、23日) 1500円、ワークショップ(全期間) 7000円、シンポジウムとワークショップ1000円、公演日程などは実行委員会(☎03・33360646)。

(堀内浩二郎)

アジアの演劇事情知って

甚能



劇場やけいこ場がないため、路上でけいこをするアフガニスタンの参加劇団

アフガニスタンなど12の国と地域が参加

●シアター●

注目の舞台を二つ。

23日まで東京でアジア現代演劇祭「アジア・ミーツ・アジア2005」が開かれている。今回は、キルギスタンの「生……」、アフガニスタンの「壁の向こう側」など話題作がいっぱいで、アジア12地域のグループ、個人が公演予定。詳しくは実行委員会(☎03・33360646)へ。会場は麻布die prazte。毎

「アジア・ミーツ・アジア」など

毎日新聞 MAINICHI NEWS 2005.10.17

夜公演終了後、アジアの出演者と交流会が開かれるのがうれしい。

読売新聞 YOMIURI NEWS 2005.10.12

ガイド

★アジアの現代演劇が一堂にアジアの現代演劇を紹介するために隔年で開催されている演劇祭「アジア・ミーツ・アジア2005」が、17日から23日まで



で、東京の麻布ディプラッツなどで開かれる。

アジアの中でも、日本にはなじみの薄い国に注目し、公演をはじめ、シンポジウムや演劇ワークショップなどを通じて、演劇人や演劇ファンとの交流を深めてきた。5回目の今年も、アフガニスタンのエクザイル劇場、写真、キルギスのビシケク市ドラマ劇場など、12の地域・国から

の演劇集団を招いた。実行委員の大橋宏は「建物が破壊され、路上でけいこをするアフガニスタンの演劇集団など、大地や宇宙に直接触れて創作した表現が集まった」と今回の特徴を語っている。☎03・33360646。

朝日新聞 ASAHI NEWS 2005.10.6

■Asia meets Asia

19日(金)～23日(火)、東京都港区東麻布1丁目の麻布die prazte(赤羽橋駅)。「遠く点在する、アジアの記憶の響き合い」をテーマに、アフガニスタンやキルギスタン、ベトナムなど、12カ国・地域



の劇団やアーティストが集う。Aプログラム＝19日(2500円、学生・留学生1500円)。「Unbearable Dreams 3」を、Bプログラム＝20日(金)と21日(土) (3500円、

朝日新聞 夕刊 ASAHI NEWS 2005. 10. 22

アフガンと米の俳優共演

爆弾落とした側・落とされた側を超え

アフガニスタンと米国の俳優が共演する演劇「鏡の向こう側」が21日、東京都内で上演された。アフガンを覆ってきた抑圧、暴力、戦争、占領を描く。両国の俳優らが「爆弾を落とした側と落とされた側」を超え、新生アフガンへの希望を表現している。

食事をする家族の頭上に、ソ連の爆弾が落ちるところから劇は始まる。次々とやってくる圧政者の拷問や爆撃で、家族が失われる。だが、その間にも、ナンを焼いたり、踊ったりの日常がある。

アフガンの劇団「エグザイル・シアター」は00年、タリバン政権から逃れた俳優や劇作家など10人余りがパキスタンのペシャワールで旗揚げした。

俳優で脚本家のマハムド・サリミさん(30)は

戦地新生への希望表現 麻布であす再演

カプールで映画制作を学んでいた。96年秋、タリバンの兵士に体中を殴られ、ペシャワールへと逃げた。

ペシャワールでニューヨークに拠点を置くボンド・ストリート・シアターと出会った。サリミさんにとつて米国も「爆撃と人殺しの国」だが、劇団メンバーが子どもたちに演劇を教える姿を見て、一緒に舞台を作りたいという気持ちが膨らんだ。「いまは政府と人とを切り離して考えられる。爆弾を落としたのは政府であつて、彼らではない」という。

アジアの現代演劇を上演する「Asia meets Asia」の1環で、23日に東京都港区の麻布ディーブラッツで再演される。問い合わせは実行委員会(03・3360・6463)へ。

(宮地ゆう)

日本経済新聞 NIKEI NEWS 2005. 10. 13

日経新聞 2005.10.13

自由席

知られざるアジアの現代演劇を日本に紹介し、交流を深めよう。「アジア・ミーツ・アジア」と銘打った手作りの小さな演劇祭は、こんな志を掲げて生まれた。一九九七年に始まり、五回目となる今年

は十七日から二十三日まで東京都内で開かれる。実行委員会代表の大橋宏さん率いる劇団が、韓国と香港の劇団を招いたのが発端だった。予想以上に好評を博し、すでに日本と香港の演劇人や音楽家ら六人で実行委員会を結成。インド、マレーシア、タイ、インドネシア、バングラデシュなどこれまで十カ国・地域の劇団を迎えた。

最大の特徴が「人との出会

草の根でアジアの演劇結ぶ

いと交流」と大橋さん。多くの国際演劇祭では、滞在期間が異なるため、演劇人同士が交流する機会はほとんどない。この演劇祭では一緒に日本に滞在し、互いの公演を鑑賞、意見を交換する。小さな会場で開くのも観客と触れ合ったためだ。国境を越えた共演も目玉で、今回も自主的にアイデアを持ち寄り、一つの作品を作り上げる。

今年キルギスとアフガニスタン、カンボジアから初参加。原油高による航空運賃の上昇で赤字覚悟だが、「将来アジアの別の場所でも公演できれば」。夢の実現を見守りたい。公演は麻布die pratz。シンポジウムとワークショップは高田馬場・プロトシアター。実行委員会(03・3360・6463)。(の)

共同通信社 KYODO NEWS

アジア各国現代劇を上演 東京で10月中旬にイベント

アジアの現代演劇を通して各国の文化に触れるイベント「アジア ミーツ アジア」が10月17-23日、東京都港区の「麻布die pratz」などで開かれる。1997年から続く企画。今回は「遠く点在する、アジアの記憶の響き合い」がテーマ。バングラデシュやキルギスなど12の国・地域から6劇団、約40人が来日する。

演劇公演は、カンボジアやフィリピンの演劇グループなどによる共同作品や、アフガニスタンの俳優らが同国の現代史をテーマに描く「鏡の向こう側」など。いずれも母国語を使用するが、「ゆったりとした時間や自然に培われた、豊かな身体表現や内面から響いてくるような音楽に満ちたものばかりなので、作品は十分伝わってくるはず」(イベント実行委員会)という。シンポジウムや観客が参加できる交流会もある。大橋宏・実行委代表は「演劇鑑賞というより、彼らが持ち込む有形無形のメッセージにじかに触れる機会にしてほしい」と話している。問い合わせは実行委、電話03(3360)6463。

★ ON THE HORIZON

PERFORMANCES

ASIA MEETS ASIA 2005

On a continent as diverse as Asia, finding common ground means

wandering into unknown territory.

By bringing together theatrical troupes from around the region, the Asia Meets Asia

festival acts like a navigational aid, helping people from disparate backgrounds understand each other better.

This year's event, to be held Oct. 17-23 in Tokyo, features contemporary theater companies and individual actors from Afghanistan, Kyrgyzstan, Cambodia, Taiwan, the Philippines, Hong Kong, Japan and elsewhere.

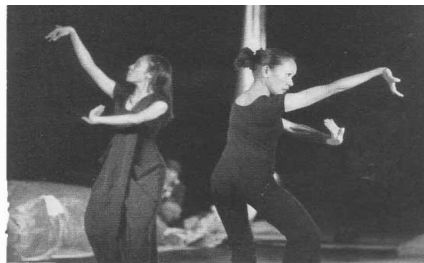
Among the seven plays on the bill is "Beyond the Mirror," a look at war-torn Afghanistan to be staged jointly on Oct. 21 (7 p.m.) and Oct. 23 (7 p.m.) by Afghanistan's Exile Theater and the Bond Street Theater of the United States.

Slated for Oct. 19 (7 p.m.) and Oct. 20 (8:30 p.m.) is "Unbearable Dreams 3," a project involving actors from several nations that explores expression that transcends language.

All plays will be performed in their original language at Azabu Die Pratz near Akabanebashi Station on the Oedo subway line. Plot synopses in Japanese and English will be available.

There will be informal discussion sessions after each day's last show.

1,000 yen-7,000 yen. Call the organizers at 03-3360-6463. For complete schedule and information about a symposium and workshop, visit <<http://homepage3.nifty.com/aa>>.



週刊金曜日
Weekly
Friday
2005.10.7

Vol.5 Asia meets Asia 2005

演劇

アフガニスタン、キルギスタン、カンボジア、ミンダナオをはじめアジア12地域・国からの現代演劇グループ(劇団/個人)を日本に招き、日本参加3劇団とともに、公演、シンポジウム、ワークショップ、共同創作公演を実施するアジア現代演劇交流活動。上の写真はカンボジアからの劇団による舞台。

■10月17日(月)19時~(シンポジウム)1000円 ※ドリンク付き、18日(火)19時~(ワークショップ)1000円(参加・見学とも要予約)、両日ともに東京都・プロト・シアター(高田馬場駅)。19日(水)~23日(日)(公演)東京都・麻布 die pratz(地下鉄赤羽橋駅)。プログラムにより開演時間、料金は異なります。詳細はお問い合わせください。実行委(03-3360-6463)

公演名	国名	公演日
Beyond the Mirror 鏡の向こう側	アフガニスタン、アメリカ	21、23日
OMUR—Life 生….	キルギスタン	21、22日
Reviving subalternity 裏面史の蘇生	カンボジア、ミンダナオ、台湾	22、23日
Unbearable Dreams 3	各国、各地域	19、20日
油田Ⅱ The Oil Field Ⅱ	日本	20日
チームタバスの愛と勇気のシェイクスピア悲劇『ハムレット』	日本	22日
【rest/labor】	日本	23日

会場・麻布 die pratz

体で表現される国際色 19日から

アジア各地から多彩な劇団、演劇人が集う公演「アジア・ミーツ・アジア」が十九日から、東京都港区の麻布 die pratz で開かれる。

カンボジア、アフガニスタンの劇団ほか、十二カ国・地域から約四十人が参加、国際色豊かな舞台を繰り広げる。

平成九年から始まり、今年で五回目を迎えた国際的イベント。「今回は未知のアジアを含め、ローカルな土地の演劇人を中心に招いた。作品の鑑賞よりも、人が出合い、訴えかけ、受け止め合うところから何かが生まれたらいい」。実行委員会員のメンバーで、劇団D A—Mの演出家の大橋宏氏はこう狙いを話す。

台湾でプレ公演を行ってきたカンボジア、ミンダナオ(フィリピン)、台湾少数民族の劇団が共演する舞台や、戦争と圧制をテーマにしたアフガニスタン、アメリカの劇団の共同制作舞台のほか、日本から参加する三作品を含め、言葉よりも身体的な表現に重きを置いた七つの作品を上演する。二十三日まで。

また、十七、十八日には東京都新宿区のプロト・シアターで、シンポジウム、ワークショップが開かれる。問い合わせは実行委、電話03・5545・1385。(生田誠)

アジア演劇

多数民族の劇団が共演する舞台や、戦争と圧制をテーマにしたアフガニスタン、アメリカの劇団の共同制作舞台のほか、日本から参加する三作品を含め、言葉よりも身体的な表現に重きを置いた七つの作品を上演する。二十三日まで。

アジア各国 現代劇を上演

東京でイベント

アジアの現代演劇を通して各国の文化に触れるイベント「アジア・ミーツ・アジア」が17~23日、東京都港区の「麻布 die pratz」などで開かれる。

1997年から続く企画。今回は「遠く点に至る、アジアの記憶の響き合い」がテーマ。パンケラテシユやキルギスなど12の国・地域から6劇団、約40人が来日する。

演劇公演は、カンボジアやフィリピンの演劇グループなど。



アフガニスタンの現代劇を描写した作品「鏡の向こう側」

ループなどによる共同作品や、アフガニスタンの俳優らが同国の現代史をテーマに描く「鏡の向こう側」など。

いずれも母国語を使用するが、「ゆつたりとした実行委員会」というシンポジウムや観客が参加できる交流会もある。問い合わせは実行委、電話03(3360)6463。

埼玉新聞
SAITAMA NEWS
2005.10.14

Modern theater festival seeks to link Asia

THE DAIRY YOMIURI Oct.10

By Kumi Matsumaru
Daily Yomiuri Staff Writer

About 40 performers, dancers and other artists from Japan and 11 other countries and territories in Asia are joining together in Tokyo for a festival in which they will perform their own modern theater productions.

A *Asia Meets Asia 2005*, a biennial event that started in 1997, is aimed at introducing various forms of modern theater in the region through performances, symposiums, workshops and direct contact among people not only in theater companies but also among these people and the audiences who go to see them.

"This year for the first time, we are inviting groups from Afghanistan and Kyrgyzstan," said Hiroshi Ohashi, director of the festival and of participating Tokyo-based theater group D.A.M. "The Afghan group, Exile Theatre, will present *Beyond the Mirror*, a work expressing the hardships and difficulties of human life, in a collaboration with U.S. group Bond Street Theatre."

Ohashi says a total of 10 performances will take place Oct. 20-23 at Azabu Die Pratz theater in Minato Ward, Tokyo, following a related symposium and workshop held earlier this week.

He said the performances would help audiences experience aspects of the culture of various parts of Asia that are still less well-known internationally.

Beside the two groups newly attending the festival, troupes from Cambodia, Taiwan and Mindanao Island in the Philippines will also jointly present a modern theater production.

According to Ohashi, audiences will see how modern theater productions can vary depending on the origin of the group, and how part of these differences relate to the speed of modernization of the respective country or territory.

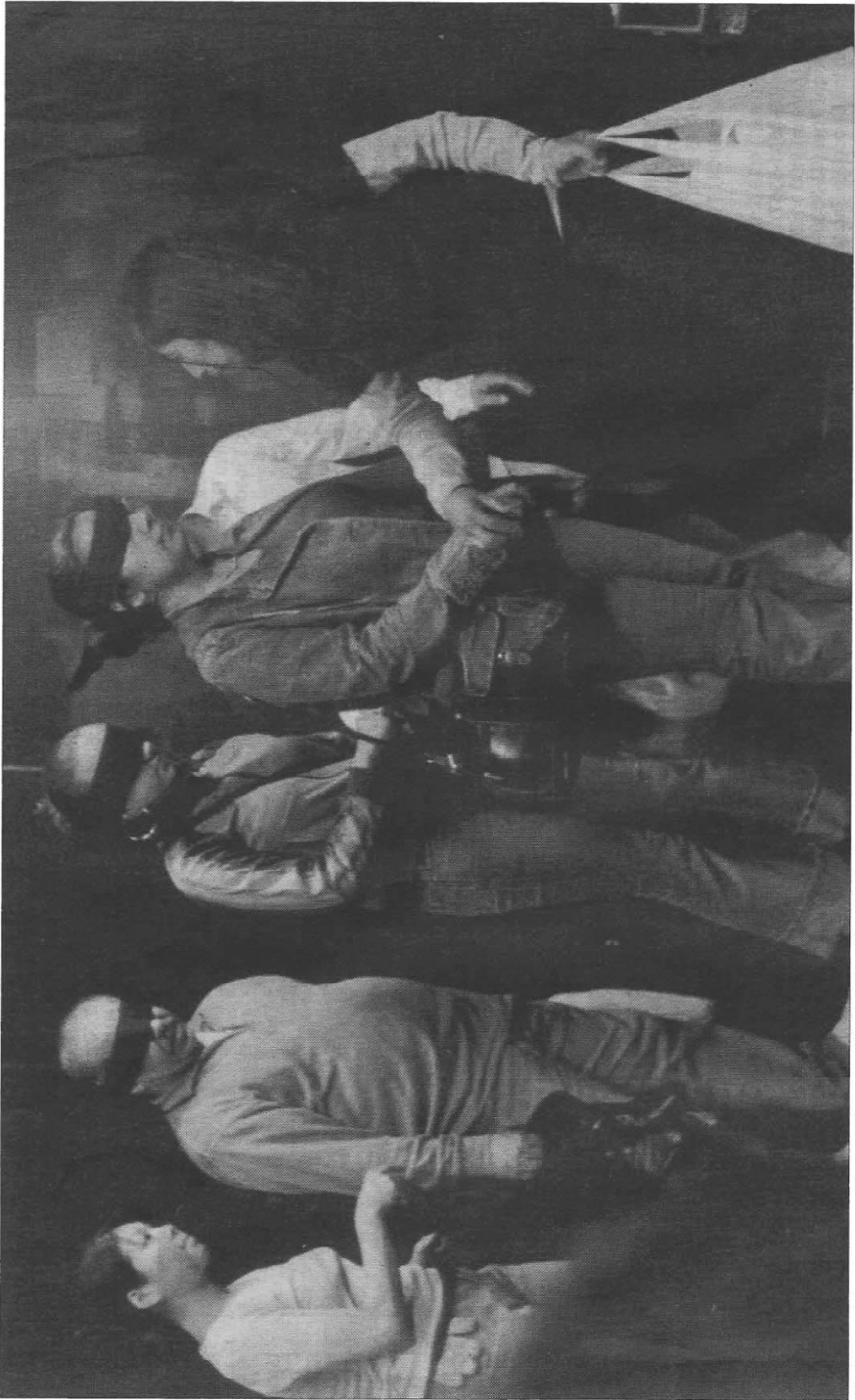
"It is another characteristic of this event that through their performances participants often try to highlight the social or political problems they are currently facing," Ohashi said. "In the 2003 event, for example, a theater company of Iraqis living in the Netherlands appealed for peace in their home country through their production."

The event will also amply demonstrate attempts by some troupes to seek alternative approaches to conventional theater presentation, Ohashi said, adding that other troupes will emphasize nonverbal expression.

One of the 10 productions, *Unbearable Dreams 3*, is a collaborative project in which performers, dancers and musicians from seven countries and regions join hands to present ideas that are "close to theatrical performance." The members include a Chinese performer and an Indian performer, both based in Seattle.

According to Ohashi, this particular collaboration started in 2000 between Clash, a group from Hong Kong, and Tokyo's D.A.M.

After they performed together in the two cities, Shin Bao Dao, a blind theatrical group from Taipei, was invited to participate in 2003 as a new member of the collaboration.



Unbearable Dreams 2, performed in 2003, is the fruit of a collaboration of a blind theatrical group from Taipei, a group from Hong Kong and D.A.M. of Tokyo.

"By realigning its participants and its approach to presenting its collage-like productions, I hope the collaboration can grow each time and give off artistic sparks," he said.

In addition to this group, three companies from Tokyo will also perform their works.

From Oct. 20 to 22, sessions will be held at the end of each day, in which performers, members of other theatrical groups and audience members can freely discuss the performances of the day.

Participants in the discussions will also be able to talk about cultural situations in general in their respective countries or territories with the help of interpreters.

"There are a lot of exchanges in Asia, including many sporting events. But when it comes to theater productions it doesn't happen much," Ohashi said. "Even when such exchanges do occur, they

tend to take place only within Southeast Asia or in areas around the Persian Gulf. But we want to realize real exchange within the whole region, while at the same time overcoming Japan's relative isolation in such exchanges."

Ohashi said that while cultural exchange through pop music and animation can often be seen among Japan, South Korea and Taiwan, this kind of cultural interchange tends to be limited to television broadcast-related work and is often closely linked to Western culture.

"So I believe it's meaningful to aim for cultural exchange through a form of physical expression," Ohashi said.

Asia Meets Asia 2005 will take place Oct. 20-23 at Azabu Die Pratz theater in Minato Ward, Tokyo, (03) 3360-6433.